

天真寺門信徒会だより

2005
H17
1月
Vol. 335

●今月の法語カレンダー● ご法縁に遇えば

人生を見直すことができる
蘿 順章 (1930～)

「法縁」とは、仏法とのご縁ということですが。仏教ではこの縁を何よりも大切にしています。私のお得度するとき、在家からお寺に嫁がれる方とご一緒しました。「お寺の人は何でもご縁・ご縁：なんだから。」と、女性ならではの結婚に関するさまざまな面倒ごとへの不平も、この一言で済まされてしまう、とこぼしておられました。それを聞いて、思い当たるどころもあり、ふと笑ってしまいました。

いいことはご縁と喜んで、自分に都合の悪いことをご縁といただくことは、なかなか難しいことですね。仏法は、何よりも人間の心を問題として深く探ねてきました。どんなにつらく苦しい時でも、私を認め、そして撰め取り、抱き、護ってくれるはたらきを知ってこそ、いいことも悪いことも全てを受け入れ、人生を歩めるのではないのでしょうか。

一月の行事

●元旦会(修正会)

- 1月1日(土) 午後2時
一年の始まりにあたり、仏さまの前で、今年もお念仏とともに日々生き抜く決意を新たにす元旦のお勤めです。どうぞ家族そろってお参り下さい。
- 朝の日曜礼拝 毎日曜朝7時
一緒におつとめいたしましょう
- 婦人の集い(新年会)
1月11日(火) 午前11時
どうぞお気軽にいらして下さい。

●仏教講座会

- 1月20日(木) 午後1時半
講師 加戸利圓師(目黒区)
- ヨーガ教室 各午後12時半
1月12日・26日(水)

二月の行事

- 仏教講座会 2月20日(日)
講師 山下義円師(岡山県)
- 婦人の集い 2月12日(土)
築地本願寺にて観劇の予定
- 千葉組連研
2月13日(日)



光壽無量 慶賀新年

釋惠照

今年も新しい年が始まりました。皆さまも新たな気持ちで、夢を抱きつ決意を新たにしておられることとでありましょう。

先日、「人生おもしろおかしく生きられればいい」と公言しておられる方と出会いました。でも：その方もきつと嘆き苦しむ時が来るのであります。蓮如上人は

人間の楽しみの一時のことであるぞ。無常の風が来れば、いかなる病苦にあひてかむなしくなりなればや。
(御文章)

と示されます。

お寺の役目は、「空しい人生」ではなく、阿彌陀さまの願いを通して「有難い人生」(おかげさまの人生)に気がつかせて頂くことであります。

阿彌陀さまの願いの中に、愚かな私が、愚かなままに抱き取られ、生かさせて頂き、永遠なる智慧のいのちの世界へ往生させて頂くこととあります。

左記にご紹介する詩は、岡山県のある女性の詩であります。

ああ恥ずかしや知らなんだ
今日が今日まで

この我が姿を知らずに
うぬぼれて

邪見驕慢鼻高く
人の事なら真っ先に

目にかど立てて言いふらし
義理も人情もなき姿
わが足元はぬきにして
人の善悪ながめては
日にち毎日地獄道
うわべばかりの殊勝顔
あまりの哀れなこの我に
久遠の母親の真心は
あの手この手のご催促
打ってたたいて縛り上げ
目を覚ませ
おのが姿を省みよ
我が足元を省みよ
久遠の母親の真心に
照らし出されたわが姿
それとも知らず今日までも
おのが姿をうち忘れ
鬼にも勝る恥ずかしさ 合掌

本年もどうぞよろしく

お願いいたします。

天真寺一同

- | | |
|--------|-------|
| 住職 | 西原 惠照 |
| 坊守 | 西原 悦子 |
| 前坊守 | 西原 敏子 |
| 衆徒 | 山口 武典 |
| | 西原 静香 |
| | 西原 竜哉 |
| | 大枝 義一 |
| | 阿部 昭二 |
| | 熊谷 保 |
| | 松川 正 |
| | 大枝 義一 |
| | 西原 悦子 |
| 門信徒会長 | |
| 仏教婦人会長 | |

●今月の法語カレンダー●

人間に生まれたのは
如来の本願を 聞くためである
伊藤 庄平 (1927~)

宗教というのと、一般には神や仏にご利益を祈願する現世利益の信仰を中心にして考えられ理解されています。しかしそれは本当の宗教ではありません。仏教詩人坂村真民さんは本当の信仰、信心ということについて次のように述べています。「悲しみや苦しみの中から信仰が生まれてくるかもしれないが、信仰のゆきつくところは喜びである。どんなに悲しいことがあっても、どんなに苦しいことが起こっても、それを喜びに変えてゆくのが、本当の信仰であり、信心である」このように述べ、続いて「どうして自分だけがこんなつらい目に会うのであるう、そういう心がいつもどこかにあつて信仰している人があつたら、それはまだ本物ではなく、また本当に仏さまの心がわかつていないのである」私に当てはまる厳しいことばです。ご聴聞を重ねて参りましょう。

二月の行事

●朝の日曜礼拝 毎日曜朝7時
一緒にお勤めいたしましょう♪

●仏教講座会 2月20日(日)
午後1時半(法要後茶話会)

講師 山下義円師(岡山県)

●婦人の集い 2月12日(土)

築地ブッディストホールにて観劇

樋口一葉原作「十三夜」

公演・午後12時(1時間半)

*申込みされた方は、松戸駅売

店前に10時半待ち合わせです。

●千葉組連続研修会

2月13日(日)於・高林寺

午後1時半~4時半

●ヨーガ教室 各午後12時半

2月9日・23日(水)

三月の行事

●春季彼岸会 午後1時半~

3月20日(日)春分の日

講師 福田了潤氏・岸弘之氏

(山口県、若住職の京都の学友。)

○真宗教団連合東京支部

3月11日(金)築地本願寺

講師 上田紀行師

『がんばれ仏教』

著者)



「ブッド・バイ」

釋龍哉

昨年の十二月、天真寺仏教講座会の皆勤賞・精勤賞の方々に「ブッド・バイ」(雪山隆弘著・百華苑刊)を贈呈致しました。この本は、産経新聞の「心」の頁のエッセイで「道」ある宗教家のガン体験」と題して二十五回の連載をまとめたものであります。この本の著者は、新聞社に勤め、結婚を機に退社をし、入寺されて様々な活動をされてきました。(また、僕の友人の父親であります。)新聞記者の視点から「仏のみ教え」を説き、この本の中においても「食・瞋・痴」(ドンチツチ)・「六道」などをわかりやすく解説されています。「ブッド・バイ」とは聞き慣れない言葉ですね。私たちは「グッドバイ」「グッバイ」を何気なく使っておりますが、これは「グッド・バイ」このグッドはゴッド(神)につながり、別れてもいつも神さまのおそばにいます。」という意味なのだそう。そこで著者がゴッドをブッダ、つまり「神」を「仏」にあらためて使うことにしたという、なんともユニークな造語なのです。

この本の中で著者は、「念仏者はブツドバイだ。つまり失ったのではなく、別れたのではなく、私の大好きな父は、阿弥陀仏の世界に往き、阿弥陀仏の世界に生まれて、いま、この私を待っていてくれるのである。わたしが一声念仏をするとき、その念仏は、仏となった父の呼び声とな

って私にかえってくる。「隆弘よ、待っているぞ。心配するな、ゆつくり来い」うれしいではないか、こんな安心なことは他にあるうか。わたしはみんなが待っているとこころへ帰れるのだ。大好きな父の導きによって——。」と書かれています。

先日、富山の雪山さんのお寺を訪問したとき、著者が始められた劇団の二十代の若者たちが、「お父さん先生(著者)がこういつていた、ああいつていた」と今さっき話してきたかのように語っておられました。「いのち」とは、たとえこの世での縁が尽きたとしても、それで終わりではないだなあ、いつまでも遺されたみんなの心の中に生き続けていくのだなあと実感しました。

「ブッド・バイ」—仏のおそばにまします。たとえ一人になろうとも、仏はあなたと共にある。今日一日、生きてる間は生きています。逢えてよかった。ブッド・バイ!著者の最後のことばです。自らが「ブッド・バイ」の人生を歩み続けられ、私たちに多くのことを教えて往かれた人だったのだと思いました。(この本に興味のある方がいたらご紹介いたします。)

活動報告

★1月の仏教講座会では、お正月のお供えのお餅で、温かいおぜんざいを美味しくいただきました。

★婦人部の新年会では、参加の方々と楽しい時間を過ごしました。

●今月の法語カレンダー●
み仏に どちらを向いても
拜まれている私
廣海 和代 (1932~)

京都北山にある梅尾とがのおの高山寺に行かれたことはありますでしょうか。とても山深い、静かなところですよ。ここにおられた明恵上人は、木立に囲まれた境内の道ばたにひっそり咲いていたスミレに合掌礼拝をされました。弟子たちがその理由を尋ねますと、上人は「ここに仏さまがおられるでないか。拜まらずにはいられない。」と答えられたといひます。一輪の花にも、空を飛ぶ小鳥の鳴き声にも、川のせせらぎにも、流れる雲にも、仏を見、仏の声を聞く、そのとき仏さまに囲まれ、仏さまに呼ばれていると感ずるのでないでしょうか。「弥陀如来は如より来生して、報・応・化、種々に身を現したまふなり」親鸞聖人のお言葉です。まわりのあらゆるものが、私と共にあり、包み、生かしてくれていると気づく時、どんなときにも決して一人ではないことが知られるのです。

三月の行事

- 朝の日曜礼拝 毎日曜朝7時
一緒にお勤めいたしましょう♪
- 春季彼岸会 午後1時半より
3月20日(日) 春分の日
講師 福田了潤氏・岸弘之氏

●仏教婦人会 一日研修会

- 3月1日(火) 築地本願寺
- 【テーマ】
- 「念仏生活にいそしんでますか」
- 【講演】 藤榮行信師(兵庫県)
- 【持物】 お念珠、式章

*参加の方は、9時半に松戸駅

「今月のことば」より
法語カレンダーの今月のことばを味わい、この「千の風」を思い出しました。これは作者不明の英語詩を、芥川賞作家の新井満氏が、自ら訳し曲をつけ歌を歌い、話題になったものです。これに真宗的フレーズを加えて補足されたものを、元旦発行の「本願寺新報」で読み、大変心に残っていたのです。



先立つた大切なひとは、今は大悲の風となり、智慧の光となり、そしてナモアミダブツの声となって、わたしを呼び続ける。今月のことばとともに味わっていただきましょう。

私のお墓の前で泣かなくてください
そこにわたしはいません
永遠の眠りになると
ついてはいません

- 売店前で待ち合わせです。
婦人の集い 3月10日(木)
お手玉作りをします。皆さんで楽しみながら致しましょう。
- 真宗教団連合東京支部
結成記念大会
3月11日(金) 築地本願寺
講師 上田紀行師

- 『がんばれ仏教』著者)
ヨーガ教室 各午後12時半
3月9日・23日(水)
- 四月の行事

- 仏教講座会 4月20日(水)
- 婦人の集い 4月8日(金)

わたしに会いたくなつた時
ナモアミダブツと呼んでください

わたしはいつでも

あなたそばにいます

だから もうお墓の前で

泣かなくてください

わたしは死んでいません

永遠の眠りになると

ついてはいません

いつでもあなたそばにいます

●春季彼岸会のご案内

- 日時 3月20日(日) 春分の日
- 時間 午後1時半より
- 講師 福田了潤氏・岸弘之氏
- (山口県)

お彼岸とは、過ぎしやすしい春分の日を中心とした七日間に、自分の日頃の生活を省み、真実(彼岸)に至る道を問い聞かせていただく「仏教週間」です。

今回の講師は、今春京都の龍谷大学大学院を卒業したばかりの、若住職の学友の若い僧侶です。どうぞ楽しみにご聴聞ください。多くの皆さまのお参り、お待ちしております。

★お知らせ

5月15日(日)の午後1時からの天真寺永代経法要では、真宗高田派寺院の坊主さんであり、舞台を中心にテレビでも活躍する舞台女優・保谷果菜子さんによる「金子みすずのひとり舞台」を公演予定です。どうぞ今からご予約ください。また皆さまの方々もお誘い下さい。また詳しくはお知らせ致します。

●今月の法語カレンダー●

念仏は わが家のきずな
御同朋への道しるべ
高井 正信 (1928~)

一昨年ですか、「世界にひとつだけの花」という曲が大変流行しました。「ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別なオンリーワン」。人はそれぞれ、そのそれぞれのいのちが輝き合ってこそすばらしいんだよ、ととても大切なことを思い出させてくれた。だからこそこの曲はこれほど多くの人に愛されたのでしょうか。「阿弥陀経」には、
青色青光 (青い色に青い光)
黄色青光 (黄色い色に黄色い光)
赤色赤光 (赤い色に赤い光)
白色白光 (白い色に白い光)
とあります。それぞれがそれぞれの光を放ち、それぞれを認め合っている。浄土というのはそういう世界である、と示されます。しかし私達の世界は全く逆。特に家庭では「我」を出し合い、実は一番難しい…。仏さまを中心に、お互いを認め合う生活をそこから始めてみましょう。

四月の行事

- 朝の日曜礼拝 毎日曜朝七時
一緒にお勤めいたしましょう♪
- 仏教講座会
四月二十日 (水) 午後一時半
講師 曾我弘章師 (広島県)
法話後、茶話会
- 婦人の集い (総会)
四月八日 (火) 午前十一時
(お昼の用意があります。)
- みのり会総会 千葉県教育会館
四月十四日 (木) 午後二時
- ヨーガ教室 各午後十二時半
四月十三日・二十七日 (水)

五月の行事

- 永代経法要・門信徒会総会
五月十五日 (日)
- 【門信徒会総会】午前十一時
- 【永代経法要】午後一時
- 【講演】金子みすずひとり舞台
- みのり会研修会
五月二十一日 (土)
- 「金子みすずひとり舞台」に寄せて
『私と小鳥と鈴と』
私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、

地面(じべた)を速くは走れない。

私がからだをゆすつても、

きれいな音は出ないけど、

あの鳴る鈴は私のように

たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがつて、みんないい。

いのち恵まれて生きている、そのいのちの一つ一つ、それぞれに、すばらしいいのちの輝きがあるのだと、うたわれています。この詩で有名な金子みすずのひとり舞台を、五月の天真寺永代経法要で講演予定です。

金子みすずは、本名金子テル。明治三十六年、山口県の仙崎村(現在の長門市)に生まれ、大正末期から昭和初期に優れた詩を発表し、西条八十をして「若き童謡詩人の巨星」とまで称賛されながら、昭和五年、二十六歳の若さで世を去りました。

お念仏のみ教えが生きている仙崎で育ったみすずは、三歳で父親と死別したこともあり、浄土真宗の信仰が厚い祖母によって、幼い頃から仏さまのところに触れました。そして、お念仏につつまれた、あたたかなやさしいそのところが、小さなものへの、名もないものへの想い、いのちへの想いとなっていくつもの作品を生み出したのです。

『大漁』

朝焼小焼だ

大漁だ

大羽鯛(おおばいわし)の大漁だ。

浜は祭りの

ようだけど

海のなかでは

何万の

鯛のとむらい

するだろう。

「みすずの宇宙」といわれるその作品に触れることによって、みすずの出会った親鸞聖人のみ教えに、私も出会わせていただきましょう。来月号にもみすずの詩を紹介いたします。

*参考・『金子みすず いのち見つめる旅』中川真昭著(本願寺出版社)

活動報告

★春季彼岸会では、若任職の学友である若い僧侶お二人にご法話いただきました。「お話を聞いていただけて育てられる、とよく言われるけれど、本当にそのことを実感しました。」と皆さんとご縁をよることで下さいました。



「天真寺門信徒会」

婦人会旅行に参加者

五月二十七日(金)〜二十八日(土) 親鸞聖人ゆかりの西念寺を訪ねる旅行が決定しました。温泉に美術館にと、皆さんで親睦をはかり、楽しく参りましょう。詳しくは別紙をご覧ください。多くのご参加をお待ちしております。

● 今月の法語カレンダー ●

私はしばしば 仏を忘れるが
仏は私を忘れない
金井 隆久 (1968~)

浄土真宗の教えにもとづく女子教育の実践をと、京都女子学園の創立に尽力された甲斐和里子さんが八十一歳のときに語られた文章があります。

泣きながら御戸を開けば御仏は

たぐうち笑みてわれを見そなわす

「オ、エライ事が出来たのう、可哀想につらからうが、わしが始終いふ通り娑婆じやからのう、しかたがない。まあしばらくの間じや辛抱せえよ」と仰せらる、やうに感ぜられ、(後略)

どんな時も忍耐強く泣きごとを言わず、仏さまに胸の内を告白し、乗り越えてこられた一生だったのでしよう。たとえ私が忘れようとも、仏さまは決して私を忘れない。私たちもつらく悲しい時、苦悩の時、仏さまの前に座りお念仏いたしましょう。きっとそのお顔は静かに微笑んで見えることでしょう。

五月の行事

● 朝の日曜礼拝 毎日曜朝七時

一緒に勤めたいしましょう

● 永代経・門信徒総会

五月十五日 (日)

【門信徒会総会】午前十一時

【永代経法要】午後一時

【講演】金子みすゞ一人舞台

● 門信徒会・婦人会旅行

五月二十七(金)~二十八日(土)

親鸞聖人ゆかりの寺を訪ねて

● みのり会研修会(婦人の集い振替)

親鸞聖人「降誕会」参拝

五月二十一日(土) 築地本願寺

お友だちは笑ふの。

私がさびしいときに、

お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、

仏さまはやさしいの。

児童文学者の矢崎節夫さんが記念講演で紹介されていました。運動会の練習をしている最中に心臓が止まって亡くなられた小学校一年生の子のお母さんのお手紙です。

「私は、ずっと、悲しくて悲しくて、辛くて辛くてしようがなくて、人がどんなに慰めてくれても、まったく聞く気がありませんでした。どこへ行っても、そういう話を聞いても、それはもう私の中で受け付けなかった。でも金子みすゞさんの詩に出会った時に、はじめて、私は変わったのです。この世の中って、素敵なことがたくさんあるのに、その悲しいことだけでいっぱいでした。でも、みすゞさんの『さびしいとき』を読んで、『私がさびしいときに仏さまはさびしいの』という一行に出会った時、『私が悲しんでいれば仏さまは悲しいんだ』って気づいた時に、『私は楽しく生きなければ。そのことによって仏さまが、楽しくなってくれる。…あの子が楽しく、喜んでくれるだろう』と思えるようになりました。」と書かれていました。

これは、みすゞさんの詩を読むと、悲しいことや辛いこと「が」なくなるのではなくて、辛いこと「で」なくなるといふことですね。辛いこと「が」なくなる

ということはありません。もし辛いことがある、辛いことがなくなると思ったら、それは本質がなくなってしまうのです。辛いことは残るのです。ただ、受け取るこちらが、辛いこと「で」なくなるかどうか：それが宗教の考え方です。

私のこころにそっと寄り添い、真実のことを優しく教えてくれるのが、みすゞさんの詩です。この機会にぜひ仏さまの優しいまなざしに見つめられて、私は生かされているのです。…とうたわれるみすゞさんの詩の世界に触れ、共に仏さまの大慈大悲のなかにあるよろこびを味わっていただきます。

永代経法要のご案内

● 日時 五月十五日 (日)

● 時間 門信徒会総会 午前十一時

永代経法要 午後一時

● 講演 金子みすゞひとり舞台

(詳しくは裏面をご覧ください。)

「永代経」とは、「お寺が存続し、み教えが繁盛し続けるように」という願いが込められた法要です。ぜひお参り下さい。また法要前には門信徒会総会が行われます。こちらにもご参加をお願い致します。

門信徒会・婦人会旅行のお誘い

五月二十七(金)~二十八日(土)

親鸞聖人ゆかりの寺を訪ね、美術館・温泉等をまわります。天真寺門信徒の親睦を深め、楽しく参りましょう。参加費一人二万二千元。申込五月二十日まで。多くの方のご参加お待ちしております。詳しくはお寺まで。



●今月の法語カレンダー●

聴聞は 他人ごとを
自分のことだと 教えてくれる
篠 直 (1952~)

先月末門信徒旅行で栃木県の『富弘美術館』を訪れました。星野富弘さんは、体育教師の時の事故で手足の自由を失いました。しかしその苦しみを乗り越え、今では美しい色彩の絵と詩で多くの人に感動を与えています。これは富弘さんの詩の一つです。

役割を果し

今まさに 散ろうとしている花

そのとなりでは 開きかけたつぼみ

ひと枝の椿

大自然の縮図

私たちは仏法を聴くことを通して、大自然の営みの中に生かされているいのちの一つである「私のすがた」に気づかされます。『ひと枝の椿』に「私のすがた」を重ねてみる。聴聞によって、他人ごとはない、すべてが自分とつながる世界が開かれてくるのです。

六月の行事

●朝の日曜礼拝 毎日曜朝七時

一緒に出勤めいたしましょう

●仏教講座会

六月二十日(月) 午後一時半

講師 安間秀常師(山口県)

法要後は、茶話会です。

●婦人の集い 六月十日(金)

親睦会です。幕張「マリンカクテル」

でのお食事会。(参加費千円)

*十時二十分に新八柱駅改札

(武蔵野線)で待ち合わせです。

●アソカ園ボランティア

六月十四日(火)

*十時半に新八柱駅改札(武蔵野線)で待ち合わせです。

千葉県内真宗寺院の仏教婦人会の活動で、錦糸町の老人ホームでのボランティアです。

どうぞ皆さんご協力お願いします。(年二回六月・十月。参加者数は六名ずつです。)

●ヨーガ教室 各午後十二時半

六月八日・二十二日(水)

七月の行事

○仏教講座会 七月二十日(水)

○婦人の集い七月八日(金)

各寺から数名ずつ参加し、二年にわたり二ヶ月に一度、県内のお寺をまわる勉強会、「千葉組連続研修会」が行われています。その修了者を対象とした京都での「門徒推進員中央研修」に天真寺から初めて市川の小林繁夫さんが参加し、その感想をお寄せ下さいました。

「門徒推進員中央教修に参加して」

三月上旬に京都本願寺聞法会館での第一六六回中央教修に参加させて頂きました。今回の参加者は全国から四九名。教修終了者はすでに六千名を超えているようです。

教修内容は「話し合い法座」を中心に、宗門の基幹運動、門徒推進員とは、仏事作法、仏教讃歌などを学びました。「話し合い法座」は連続研修会で経験しましたが、中央教修では三泊四日の短期間に四題の法座が集中して持たれたことで参加者の親近感もすぐに生まれたようで、ご講師が助言者として加わって下さったことなどによって話し合いがより深められたように思います。

印象深かったことは「示談」というご講師と一人づつ三十分じっくりお話しできる時間があったことです。また参拝会館で「決意表明式」がありました。阿弥陀様の

前一人ずつ法名を名乗り門徒推進員としての決意を述べるものですが、照明を落とした荘厳な雰囲気の中でちよつと緊張しました。

式が終わり退出しますとご講師スタッフの皆様が盛大な拍手でむかえて下さり不思議な感動をおぼえました。

今回の教修に参加して得られたことは浄土真宗のみ教えに学び、み教えを伝えていこうとされている御同行御同朋のお仲間が沢山いらつしやるということ、その熱意に触れ、交流できたことでした。楽しく貴重な経験でした。このご縁をいただきましたことをご住職様はじめ皆様に感謝申し上げます。

活動報告

★五月十五日(日)

午前には「門信徒会総会」(裏面総会報告)が、午後には「永代経法要」が無事終わりました。今年「金子みすゞひとり舞台」が上演され、大変な熱演に感動し、皆さんに喜んでいただきました。また夜には役員さんの親睦会を行われました。皆さんご協力ありがとうございました。



●今月の法語カレンダー●

念仏は 私の心を

照らし出す鏡

光山 道潤 (1970~)

困ったときの神頼み。「カミさまお願い」。けれどこれは本当の合掌ではないらしいですよ。手のひらの「シワ」と「シワ」を合わせて「シアアワセ」、つまり「シアワセ」になるということ。ただの語呂合わせですが、でも手を合わせると他のことが何もできなくなりませんか。ケンカもできないし、いいことも悪いこともできない。そこで自分の心を静かに振り返る。「ありがとう」や「ごめんない」の心が生まれて素直になれる。これが「シアワセ」の種なのかもしれない。お念仏とは、手を合わせ心静かにすると聞こえてくる仏さまのよび声です。「南無阿弥陀仏」：決して一人じゃないよ、支えられて生かされているんだよ。「今までの当たり前が当たり前でなくなってくる世界、初めて見えてくる世界があります。お念仏してどんな自分の心が見えてきましたか？

七月の行事

●朝の日曜礼拝 毎日曜朝七時
一緒にお勤めいたしますよう♪
(正信偈和讃線読み・御文章)

●仏教講座会

七月二十日(水) 午後一時半
お参り・法話・茶話会
講師 加戸利円師(東京都)

●婦人の集い

七月八日(金) 午後一時半
お参り・法話
皆さんで楽しめる簡単な「盆踊り」を教えてください。

八月の行事

●ヨーガ教室 各午後十二時半
七月十三日・二十七日(水)

○お盆のご案内

八月十六日(火)
新盆法要 午前十時半〜十二時
孟蘭盆会法要 午後一時半〜三時
講師 北 島 晃 融 師
(京都 中央仏教学院長)
今年から午前が新盆(亡くなって初めてのお盆) 法要になります。どうぞ参拝をご予定下さい。

○千葉組連続研修会 八月七日(日)

「お盆のいわれ」

お盆―正しくは「孟蘭盆会」とい、「孟蘭盆経」という經典に説かれた物語に基づき営まれる仏事です。お釈迦さまに目連という高弟がいました。大変心の優しい人で、いつも亡くなった母親を心配していました。しかし神通力をもってたずねると、餓鬼道(むさぼりの世界)で、苦しんでいる母親の姿を発見しました。母親は生前他人に施しをしなかったため餓鬼道に墜ちたのです。しかしこれも自分自身を育てるため、食べさせたのがための母性愛のせいであつたと、目連は泣きました。そしてお釈迦さまの教えにより、大勢の仏弟子たちにご馳走をし、その功德によって目連の母親は救われていった、というものです。私たちは日頃、自分が自分：とさまざま縁を忘れていきます。しかし私につながるご先祖、もつと広くはすべてのいのちにつながる仏さまのおかげによつてこの私が今生かされているのです。そのいわれを聞くなかで、おかげさまと手を合わせるころを知らせていただく。今年のお盆も近づいて参りました。大切なご縁としてお迎え致しましょう。

活動報告

救われた目連の母親の姿に、思わず歓喜の踊りを踊ったのが、「盆踊り」のおこりだといわれています。今月の婦人会ではこれにちなみ、皆さんで楽しめる簡単な「盆踊り」を教えてください。得意な方も、不得意な方も、どうぞ皆さんお気軽にご参加下さい。

★五月二十七日〜二十八日一泊二日で、門信徒会・婦人会合同旅行に行つて参りました。初夏らしいお天気に恵まれ、「西念寺」参拝、「富弘美術館」「足利学校」などを見学し、夜は川治の温泉でゆっくりと親睦を図る楽しい旅行となりました。

茨城県稲田の「西念寺」は、宗祖親鸞聖人が越後への流罪を赦された後、二十一年間布教伝道にとめられ、浄土真宗立教開宗の書『教行信証』を著されたお寺です。親鸞聖人が長い間ご苦労を重ねられた稲田の地を、皆さんとお参りし、大変ありがたい貴重な機会となりました。

●今月の法語カレンダー●

善人になるより
悪人と気づくのは 難しい
勝見 昭造 (1927~)

本願寺第八代のご門主であった蓮如上人は、「人のわるきことはよくよくみゆるなり。わが身のわるきことはおぼえざるものなり。」とおっしゃっています。ちなみに蓮如上人のお顔を知らたい方は、お仏壇の左側の掛け軸を見て下さい。ご絵像が掛かっています。お顔が見えましたか？ 私たちはあの人は意地が悪い、この人は嘘つきだ、そつちの人はケチだ見栄つ張りだと、他人のことがかりが目につきます。他人の落度・欠点・弱点や短所を見る時の自分の視力は一〇・〇・〇、反対に自分のそれらを見る時の視力は〇・〇〇〇一だそうですよ。皆さん心当たりはありますか？自分の本当の姿を知る：これは本当に難しいことです。とにかく聴聞聴聞。仏さまは私の心の内もすべてお見通しです。ご法話を聞くなかで気づかせていただきましょう。

八月の行事

●朝の日曜礼拝 毎日曜朝七時
一緒にお勤めいたしましょう♪
(正信偈和讃繰読み・御文章)

●お盆のご案内

八月十六日(火)

新盆法要 午前十時半〜十二時

孟蘭盆会法要 午後一時半〜三時

講師 北 島 晃 融 師

(京都 中央仏教学院長)

今年から午前が新盆(亡くなつて初めてのお盆) 法要になります。

ご都合に合わせて、どちらにもご自由にお参り下さい。

●お寺の林間学校

八月八日(月)〜十日(水)

場所「宇都宮 冒険センター」

●千葉組連続研修会

八月七日(日) 於・正満寺(柏)

●ヨーガ教室 八月はお休みです。

九月の行事

●秋季彼岸法要

九月二十三日(金) 午後一時半

法要・法話・茶話会

講師 松 林 宗 恵 師 (東京都)

●婦人の集い

九月九日(金) 午後一時半

お参り・法話・お経勉強会

孟蘭盆会法要のご案内

暑中お見舞い申し上げます。
天真寺門信徒の方々におかれましては、慈光のもと、お健やかにお念仏相続のこととお慶び申し上げます。
さて、本年度の天真寺「孟蘭盆会法要」を左記の通り厳修致します。なお、同封の「法名簿」は、ご記入の上当寺宛にご送付下さるか、当日ご参詣の折ご提出下さいますようお願い申し上げます。皆様のご参詣をお待ちしております。

記

【日時】 平成十七年八月十六日(火)

「新盆法要」(亡くなつて初めてのお盆を迎える方)

午前十時半〜十二時

(ビデオ上映)『仏典物語 お釈迦さま』十二時半〜(本堂)

「孟蘭盆会法要」(一般の方)

午後一時半〜三時

【講師】 本願寺中央仏教学院(京都)

院長 北 島 晃 融 師

ご提出下さいました「法名簿」は、一年間尊前にお供えし、明年お返しいたします。(昨年分の法名簿を同封しております。)

ご都合のつく方は、どちらのご法要にもご参詣下さい。ご講師には、それぞれの法要に合わせて違つたお話をさせていただきます。